科目ナンバリング	G-LAS12 80031 LJ55						
授業科目名 <英訳>	データ科学展望Ⅰ Perspectives in Data Science I			担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 教授　　田村　寛		
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)	統計・情報・データ科学系	使用言語	日本語
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 9月14日月曜1～5限（対面）、9月7日月曜3～5限（メディア）	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（情報学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

情報学研究科開講の「データの二次利用実践論」と兼ねた開講になる.
情報学研究科の学生はそちらを選択すること

Society5.0の実現による更なる経済成長や生産性の向上に向けて、社会全体のデジタル化が不可欠とされる。政府もデジタル庁の設置に代表されるように、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進している。DXの恩恵として蓄積されるデータの二次活用は、さらに大きな可能性が広がっている。本講義では、医療や教育等を例に社会におけるデータの活用の現状・課題・解決の方向性について議論を深めることを目指す。

[到達目標]

社会に蓄積されるデータについて、医療や教育等を例にデータがどのように集積され、どのように分析されているのか。その際の課題にはどういうものがあり、解決に向けた方策にはどのようなものがあるのか、を理解し説明できるようになること。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、1課題あたり1～2回の授業を合計8回（フィードバックを含む）で、必要に応じて学内外の専門家の意見も踏まえながら、データの二次利用の現状・課題・解決の方向性について学ぶ。
開講にあたっては、受講生の所属するキャンパスの配置や受講形態にも配慮するとともに、対面授業以上に受講生間の活発な議論を期待し、一部同時双方向型のメディア授業で実施する。

- 導入（1回）　【メディア授業：同時双方向型】
- 個人情報を含むデータの二次利用(1回)
- データに基づいた政策・経済評価・経営実践（3回）
- データの二次利用の限界(1回)
- データを活用した研究(2回)　【メディア授業：同時双方向型】

（9月14日に対面授業、9月7日にメディア授業の開講を予定）

なお、講義の進度・文科省のモデルカリキュラム等を反映して、内容・順序・日程の変更や省略・追加を行うことがある。

データ科学展望Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

データ科学展望Ⅰ(2)

[履修要件]

京都大学「統計入門」と同等（数理・データサイエンス認定プログラムリテラシーレベル）の単位を取得していること

[成績評価の方法・観点]

平常点相当（授業への参加（出席そのものではない）・小課題・授業での発言・リアクションペーパー等）60%、複数回のレポート課題等40%

[教科書]

使用しない
適宜、動画を含めた資料などを示す。

[参考書等]

（参考書）
中山 健夫「医療ビッグデータ時代」の幕開け
中室牧子、津川友介「原因と結果」の経済学――データから真実を見抜く思考法

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書図書の確認、リアクションペーパーの提出などを求める。
また、オンデマンド型動画を活用した反転学習も取り入れるので、授業前に指定した動画の閲覧と質問の提出を求める。

[その他（オフィスアワー等）]

講義中に教員との連絡方法について指示する。また、以下の点にも留意を求める。

・情報学研究科の学生は，大学院横断科目として履修登録できない。情報学研究科開講の「データの二次利用実践論」を選択すること。

・集中講義で採点報告日以降に実施するため、成績報告に遅れが生じ得ること。

・医療データ人材育成事業（KEUP-DHI）受講生は、別途その旨申し出ること。

[主要授業科目（学部・学科名）]